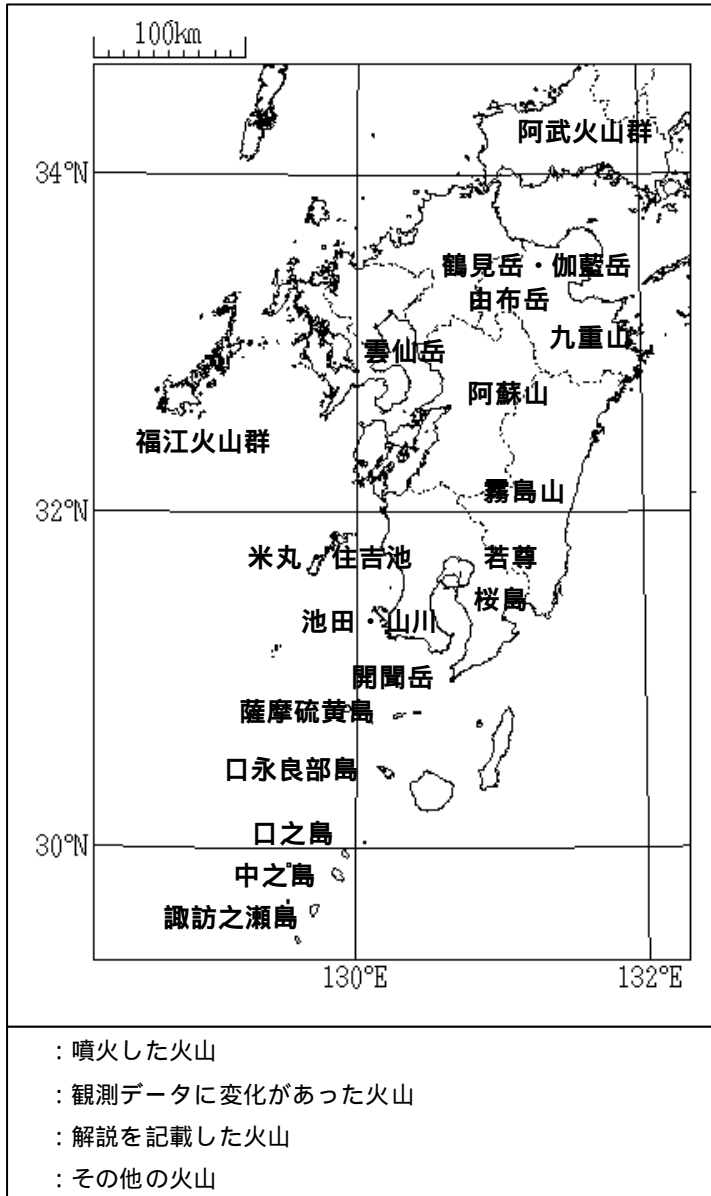


九州地方の火山活動解説資料(平成 15 年の活動)

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

山口・九州地方の火山



平成 15 年 4 月 1 日に活火山の定義が変更されました。その結果、九州・山口県の活火山は 11 から 18 火山となりました。また、火山活動の程度によって活火山を 3 つのランク (A、B、C) に分類しました。

平成 15 年 11 月 4 日から、阿蘇山、雲仙岳、桜島について、火山活動の状況が容易に理解できるように、火山活動の程度を 0 ~ 5 の 6 段階の数値で表現した、「火山活動度レベル」の提供を開始しました。「火山活動度レベル」は、気象庁ホームページに常時掲載するとともに、レベルに変化があった場合、またはレベルが変化しない場合でも必要と認める場合は、火山情報(緊急火山情報、臨時火山情報、火山観測情報)に付加して公表します。

平成 15 年の月別火山活動状況

火山名	平成15年(2003年)											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
鶴見岳・伽藍岳												
由布岳												
九重山												
阿蘇山												
雲仙岳												
福江火山群												
霧島山												
米丸・住吉池												
若尊												
桜島												
池田・山川												
開聞岳												
薩摩硫黄島												
口永良部島												
口之島												
中之島												
諏訪之瀬島												

概況

九重山：火山活動は落ち着いた状態が続いています。

阿蘇山：火山活動は、7月には土砂噴出に伴う火山性微動を観測するなど年間を通してやや活発でした。孤立型微動は、4～6月にかけて一時的に減少しましたが、年間を通じて多い状態が続きました。火山性地震も10月にB型地震の日回数としては観測開始以来最多の138回を観測しました。中岳第一火口の南側火口壁下の温度及び湯だまりの温度は年間を通じて高い状態が続きました。また、湯だまり量の減少傾向も続いています。

雲 仙 岳：火山活動は落ち着いた状態が続いています。

霧 島 山：御鉢付近を震源とする火山性微動は、3月25日に継続時間13分の微動が発生した後、11月中に継続時間1～6分の微動が7回あり、12月12日に継続時間40分の微動が発生しました。火山性微動は年間に20回発生し、微動発生後に火山性地震が多発した日もありました。12月13日に御鉢火口内の南壁中腹に新しい噴気孔が2ヶ所確認され、13～22日にかけて火口縁を越えて噴気が上がりました。新燃岳付近では火山性微動は発生せず、火山性地震も少ない状態が続きました。

桜 島：南岳は噴火及び爆発的噴火(以下、爆発)を繰り返しました。年間の噴火回数は29回、そのうち爆発は17回でした。年間の爆発回数は最近10年ではもっとも少なく、山頂噴火を始めた昭和30年(1955年)以降では、昭和30年(6回)、昭和46年(1971年、10回)に次ぐ少ない1年でした。11月中・下旬と12月31日にA型地震がやや増加した他は、火山性地震、火山性微動は総じて少ない状態で経過しました。

薩摩硫黄島：火山活動は、6～10月にかけて時々噴火が発生しやや活発化しました。6月7日の噴火では、噴煙の高さが1,000mに達しました。これは、平成11年8月に三島村役場硫黄島出張所からの報告開始以来初めてです。

口永良部島：火山活動は、2月から火山性地震が増加し、その後も100回前後と多い状態で経過しました。また、振幅の小さな火山性微動を観測するなど、やや活発な火山活動が続きました。

諏訪之瀬島：火山活動は、噴火や爆発的噴火を繰り返し、爆発音や体感空振を伴うなどやや活発な状態が続いています。爆発的噴火は、8月と11月除いて毎月発生しました。地震活動は、年間を通じてやや多い状態が続きました。また、火山性微動が度々発生し、継続時間の長いものは数日間続きました。